

備中ささげハウス栽培適性試験（4年目）

1. 目的・背景

平成 24 年度から帯広市川西地域において「備中ささげ」の露地栽培適性試験を実施したが、収量性の年次変動が大きかったため、平成 29 年度からハウス栽培における栽培適性の確認及び栽培技術の確立を目指している。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種：「在来種」

(2) 面積および区制 ハウス栽培区 28㎡：畦幅70cm×2畦×20m

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日
沖積土	壤土	野菜類	70cm×50cm	ハウス・手竹	5/20

※1株2本立

(4) 施肥・防除

土改資材 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)						防除回数	
	施肥時期	肥料名	窒素	リン酸	加里	苦土	病害	虫害
炭カル 80kg	基肥 5/20	豆用1号 80kg	2.4	20.0	10.4	3.6	2	2

※播種後～生育初期にかん水を実施

4. 試験成績

(1) 生育状況

出芽期は5月28日で出芽揃いも良好であった。7月15日に間引きを行い、全株2本立とした。6月中旬～下旬は曇雨天・日照不足が続いたため生育はやや緩慢となったが、7月以降の好天により生育は回復した。開花期は7月31日で平年より2日程度早かった。8月の高温天候により生育は旺盛となり、分枝や着莢数は例年より多く、登熟は順調に進み、熟莢率の割合は高かった。根切りは例年より早く9月14日に実施した。

生育及び作業ステージ

区分	出芽期	支柱立て 間引き	つる上げ	開花期	根切り	収穫 (手もぎ)	脱穀
ハウス区	5/28	6/25	7/17	7/31	9/14	9/4～17	10/5

(2) 収量調査

9月4日から熟莢の手もぎ収穫を始め、9月14日に最終収穫を行い、自然乾燥の後10月5日に脱穀調整を行った。

1株当たり莢数が105.5個で過去3ケ年平均対比129%と多く、百粒重も17.6gと大きかった。10a

当たり製品収量は360.2kgで前年をやや上回った。(前年比103%)。病害虫の発生が少なく、熟莢率が高く、登熟が良好であったことから品質は良かった。

○調査結果

区分	収穫株数 (株)	子実総重量 (kg)	製品重量 (kg)	屑重量 (kg)	1株 総莢数	うち 熟莢数
ハウス区	80	10.8	10.6	0.2	105.5	100.0

○10a当たり換算収量

区分	総収量 (kg)	製品収量 (kg)	規格外 (kg)	百粒重 (g)	製品率 (%)	外観 品質
ハウス区	360.2	353.0	7.2	17.6	98.0	良

5. 考察

ハウス栽培で播種後から適度なかん水を実施したことにより、出芽及び初期生育が非常に良好であり、その後の長引く日照不足等の影響もほとんどなかった。開花期以降の生育、着莢及び登熟も順調に進んだ。製品収量は前年より高く、品質も良好であったことから、ハウス栽培の有効性が認められた。

ハウス栽培はつるの誘引と収穫作業に多くの労力を要するが、高収量・高品質の安定生産が確保されることから、有望な栽培方法と考えられる。

ハウス栽培での注意点としては、かん水が必要なことと、アブラムシの発生が多くなるため防除対策が必要なことがあげられる。



6.1 かん水により出芽揃いは良好



7.19 開花前の生育は日照不足、水分不足でやや不揃い



8.19 開花後は生育旺盛で着莢多い



12.15 整粒歩合が高く品質は良好

参考：過去8年間の収量実績

年・作型	総収量 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	屑収量 (kg/10a)	百粒重 (g)	製品率 (%)
R2 ハウス	360	353	7	17.6	98.0
R1 ハウス	357	341	16	16.2	95.5
H30 ハウス	212	200	11	15.1	94.4
H29 ハウス	329	315	13	18.4	95.8
H29 露地	65	32	32	16.3	49.5
H28 露地	83	55	26	15.8	67.1
H27 露地	96	90	5	17.5	94.4
H26 露地	131	79	51	16.2	60.8
H25 露地	65	32	33	16.9	49.2

※ 露地5ヶ年 平均製品収量 58kg/10a (H25~H29)
 ハウス4ヶ年 平均製品収量 302kg/10a (H29~R2)